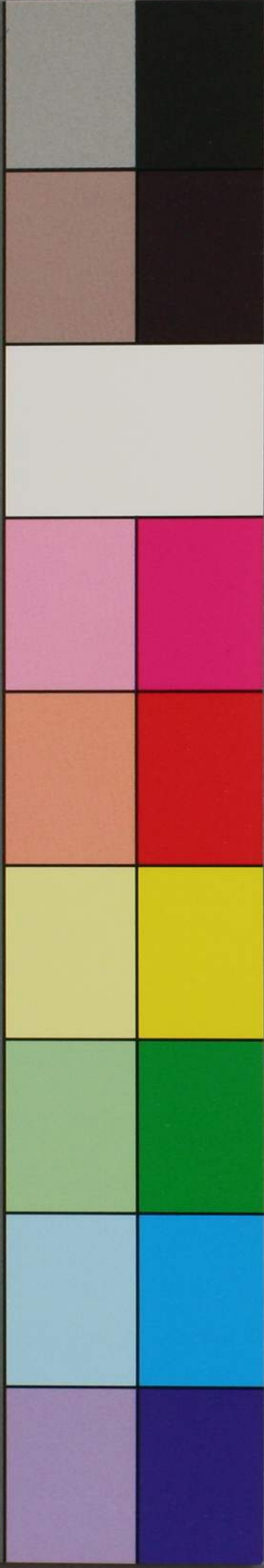


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



萬國曆史直譯

第一編

洋学文庫

文庫 8

C 259

1





亞國ペエトル・パアリー著  
日本西村恒方譯

第一編

萬國曆史直譯

東京 千成樓藏板

57095



萬國曆史





史記直譯

對石



萬國歷史直譯初篇

緒言

一方今英學ニ從事スル者日一日ヨリ多シ  
シ文典地理書ノ如キハ其文平坦教ユ  
ル者モ能ク之ニ熟ス故ニ其之ヲ學フ  
ヤ大ニ苦マズ特リ史乘ニ至リテハ讀  
者頗ル困苦セリ依テ余今ペートルパ



一リ一氏著ス所ノ萬國歴史ヲ直譯シ  
譯字ノ鄙俚ヲ厭ハズ勉メテ初學童蒙  
ノ史乘ヲ讀ムニ便セント欲ス  
書中文字ノ左側ニ——ノ線標アルハ  
關係代名詞等ヨリ上文ニ関涉スル文  
意ヲ再ヒ示シ又人名國名等漢譯アル  
モ多クハ假名文字ヲ以テ之ヲ記シ「  
ノ區標ヲ付シテ前後ヲ別ツ但英吉利

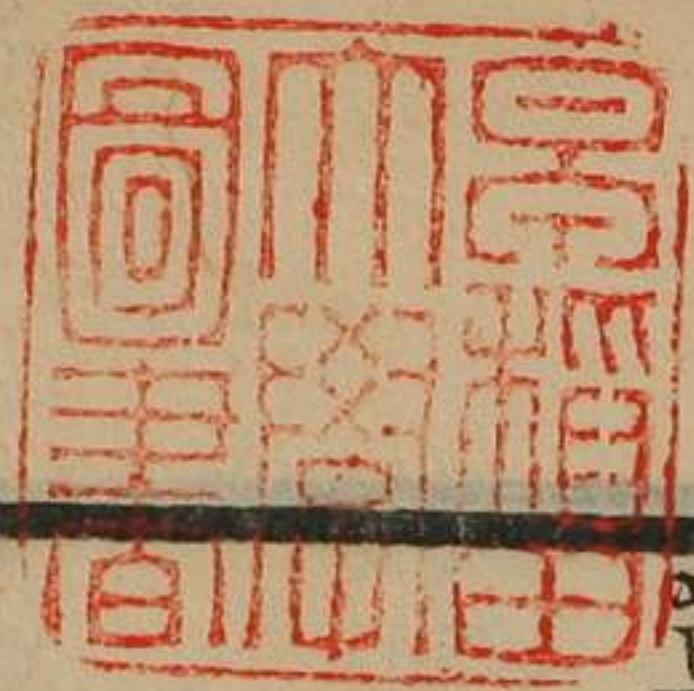
佛朗西等ノ如キ人常ニ暗意スル處ノ  
者ハ此例ニ非ズ且左側ニ假名ヲ以テ  
原語ヲ付スルハ重ニ熟語ト知ル可シ  
一此他簡易ヲ主トスルヲ以テ讀者文意  
ノ通曉ニ難キ所ハ再三熟讀ヒ自ラ其  
意ヲ了解スルニ至ラシ

明治五<sub>壬</sub>申二月

譯者誌



昔ハ北國ニ非ス且夫國ニ列スルハ  
漸歐西等ノ味ヲ入帶ニ加テ六北吹ハ



万国歴史直譯



風船カラ地理學ヲ學ブ事

第一章

風船ニテ旅スルコトニ就テ及ヒ人が見  
テ有フ処ノ面白キ物ニ就テ

一若シモ汝ガ風船ニ乗込ミ空氣ニ登リソ  
一シテ國中ヲ傳テ走ルナラバ幾多ノ感



ズ可キ者ヲ汝ハ見ルテ有フ 一瞬間ニ  
汝ハ首府ヲ越テ達スルデ有デ有フ他ノ  
者ニ於テ汝ハ谷ヤ又川ヤ又小山ヤ又山  
ノ上ヲ見下スデ有フ

二何が地理書ト名付ラル、カラ勉強スル  
トニ就テ其ガドンナ面白キ仕方デ有デ  
有フ 地理書ニ向テ汝ハ首府、川谷、小山  
山及ヒ他ノ物其ハ旅人ガ出合フ所ノ他

ノ物ノ書記シデ有ヲ知ル

三

其ハ何所ニ都ガ置レドウ川ガ流レソ

シテ何所ニ山ガ横タワルカラ顯ハシタ  
ル画図ノ種類ヲノミ汝ニ与フル処ノ地  
図ヲ見通スヨリ其ガ幾多ノ最モ樂キ物  
デ有デ有フ 然シナガラ我々ノ甚ダ終  
ガ風船ニテ旅シ能フ通り我々が地図ヲ  
以テ十分サレ子バナラヌソシテ我々



ガ能フ丈ケ其レ丈ケ彼等カラ地理書ヲ  
學バ子バナラマ

④其レハ有ル隔タリタル国ニ旅スルトニ  
於テ我々が常ニ見タル或ル物カラ違フタ  
ル建家ト出合フデ有フトヲ仮定ムル其  
ハ少ク氏五百年以前ニ營マレタカノ如  
ク其ガ答ヲ以テ蓋ワレソシテ大ヒナ  
ル年ヲ以テ記サレタル石ニ付テ建ラレ

シトヲ仮定ムル

⑤其ハ此ノ建家ニ入込ムトニ付テ我々が  
奇跡ニシテ大ナル嵩ノ暗キ部屋ヲ見デ  
有フトヲ仮定ムル其ハ我々が其ノ下ニ  
彼等ノ骨ガ葬ラル、処ノ石ノ上ニ彫ラ  
レタル彼等ノ名ヲ以テ二三百年前ニ死  
ニシ処ノ人ノ墓所ヲ此建家ニ於テ見ル  
デ有フトヲ仮定ムル



六 我々が總テ其ニ付テ考エルデ有フコニ  
 付テ汝ハ今何ヲ想像シ為スカ 我々ハ  
 何故ニ此建家が營マレシカラ知ル可ク  
 好マレヌデ有フカ幾<sup>イッ</sup>日ソ<sup>ツ</sup>シテ何<sup>タ</sup>人ニ  
 依テ其ガ建ラレシカラ知ル可ク我々ハ  
 好マレヌテ有フカ 其人ハ箇様ニ驚ク  
 可キ建家ヲ建シ処ノ人<sup>ホウ</sup>ノ有物ヲ知ルコ  
 ヲ好マレヌデ有フカ 我々ハ五百年モ

六 跡歸リソ<sup>ー</sup>シテ此ノ隔タリタル時代ノ  
 話シヲ知ルコトヲ好マレヌテ有フカ  
 七 及ヒ若シモ我々が其人ハ左様ニ長ク生  
 活シタ処ノ有ル老人ト出合フデ有フナ  
 ラハ我々ハ彼ノ腰ニ依テ坐シソ<sup>ー</sup>シテ  
 此建家が如何<sup>ドウ</sup>建ラレタカノ話シヲ彼ニ  
 聞クコトヲ好マレヌデ有フカ 我々ハ其  
 人ハ其ヲ營ミシ処ノ人ヤ及ヒ其ハ其ノ



内ニ幕ラレタ処ノ又ニ付テ多クノ疑問  
ヲ彼ニ問ハヌデ有フカ

八 今若シモ汝ガ外国ニ於テ旅ス可ク有シ  
ナラハ汝ハ我が書記シタ通り最モ多キ  
箇様ナル建家ト出合フテ有フ 汝ハ實

ニ其ハ五百年ヨリ最モ古ク有ル処ノ多  
クノ物ヲ見デ有フ  
九 若シモ汝ガ伊太利又希臘又エジプト又

亜細亞ノ有ル部分ニ迄汝ノ旅ヲ廣ク可  
ク有シナラハ汝ハ殿堂ヤ王宮ヤ及ヒ首  
府其ハ加之<sup>シカノモナラヌ</sup>ニ三年前ニ成立シ所ノ古  
跡ト屢<sup>シバ</sup>出合フデ有フ 其レ等ノ有物  
ガ彼等ノ美麗ノ譯ニ付テ汝ノ驚ヲ引起  
スデ有フフレシテ有物ガ彼等ノ大ナル  
物ノ譯ニ付テ汝ノ驚ヲ引起スデ有フ

十 箇様ナル物ト汝ハ外国ニ於テ出合テ有



フ然シナガラ何人モ彼自ラノ氣付ケカ  
ラ彼等ノ咄シヲ汝ニ告ゲ可ク十分古ク  
見ラレ能ハヌ 然ル時汝ハ何ヲ為デ有  
フカ恐ラクハ汝ハ汝ノ旅カラ帰ル後チ  
古キペートルパレート坐シフーシテ其  
レ等ノ昔ノ時代ノ歴史ヲ聞ク可ク十分  
有デ有フ

①士善ク我ハ我ノ案内者ノ多クガ各付テ旅

シ又隔タツタル国ノ案内ヲ以テ復定  
ムル恐ラクハ然ル時彼等ガ最古キ時代  
ノ話シヲ老人ニ聞ク可ク好マル、若シ  
モ案内者が既ニ我ノ話シニ付テ退屈サ  
レヌナラバ我ハ坐シフーシテ何ヲ我ハ  
言フベク以ツカラ聞クヲ彼ニ願フ

第二章

歴史及ヒ地理書及他ノ物ニ付テ



①我ハ「ヒストリー」及「シテグラビ」ナル語  
 ト屢々出合タ「ヲ」後定ムル 歴史ハ世  
 界ガ仕出サレシ後人間ノ話デ有ル及ヒ  
 老人其人ハ年ノ数千ノ間生キタ所ノ者  
 ヤ及ヒ其人ハ建タル首府ヲ見ソーシテ  
 衰微ニ迄落チタ所ノ者ヤ其人ハ人民ガ  
 生ジテ榮エテソーシテ衰エルヲ見タ所  
 ノ人及ヒ其人ハ驚ク可キ事ノ十分ナル

記臆ヲ以テ左様ニ多クノ年ノ間出来タ  
 所ノ総テニ付テ汝ニ告ケ可ク坐ス所ノ  
 古キ人ニ迄比較サレモシヤウ  
 ②地理書ハ我が前ニ言レタ通り都ヤ川ヤ  
 山ヤ及ヒ国ノ書記シデ有ル 物其レハ  
 旅人ガ一ノ場所カラ他ノ物ニ迄行ク「  
 ニ」於テ見ル所ノ物ノ書記シデ有ル 地  
 理書ハ然ル時其人ハ船ヤ車ヤ蒸氣船ニ



於テ世界中ヲ學バレテワ―シテ其ハ彼  
が見タ処ノ訳ケヲ我々ニ与エ可ク跡歸  
エツタ処ノ有レ漂泊シタル人ニ迄比較  
サレモシヤウ

③然ル時其ハ歴史ガ出来タ所ノ出来事ノ  
書留デ有ルヲ汝ハ見ルデ有フツ―シ  
テ其レハ地理書ハ其所ニ彼等ガ出来タ  
所ノ場所ニ付テ汝ニ告ゲルヲ汝ハ見

ルデ有フ以前ノ物ヲ理解スベキ訳ニ於  
テ汝ハ終ノ有物ヲ知ラ子バナラヌ 此  
ノ終ノ書物ニ於テ我ハ其レ故ニ時トシ  
テハ其人ハ年ノ十年ガ間生タ所ノ歴史  
ノ古キ老人デ有可ク請合ウデ有フ及何  
ガ過來ツタカラ汝ニ告ゲル所ノ歴史ノ  
古キ老人デ有ル可ク請合ウデ有フ及時  
トシテハ我ハ風船ヤ又船ニ汝ヲ乗セル



デ有フ及其所ニ我が話ス所ノ出来事ガ  
出来タ所ノ場所ニ迄我ト共ニ汝ヲ連行  
クテ有フ

④我ハ我ノ話シノ進ニ於テ何様最初ノ男  
及女ガ為サレシカ何様彼等カ大ナル親  
族ヲ持シカ何様其等ガ種々ノ国ヲ通シ  
テ彼等自ラヲ増シワシテ廣ゲルカラ  
汝ニ告ゲルデ有フ 其ハ大ナル戦争其

ハ戦ハレタ処ノ大ナル戦争ニ付テ及ヒ  
高名ナル人ノ死ニ付テ成立ツタ処ノ大  
ナル人民ニ付テ汝ニ告ルデ有フ

⑤然シナカラ我カ進ミシ前ニ我ハ汝ニ記  
憶セ子バナラヌ其ハ世界ガ圓ク有リヤ  
及ヒ其ハ人及動物ガ表面ノ上ニ住ム  
ヤ地球ノ外面ガ陸及水ニ迄分タル、  
ヤ陸ノ上ニ木、草、灌木及花ガ生スル  
ヤ



陸ノ上ニ人及動物が住ムヤ陸ノ上ニ  
都、首府及村が建ツテ有ル事ヲ汝ニ記臆  
セ子バナラヌ

六 汝ハ知ル通り陸ノ高キ部分ガ山及小山  
ト名付ラル、陸ノ低キ部分ガ谷ト名付  
ラル、谷ヲ通シテ流レニ於テ流レタル  
水ガ川ト名付ラル、小山ニ依テ取巻レ  
タル水ノ静ナル部分ガ湖水ト名付ケラ

七 地球ノ表面ノ大抵三分ノ一ガ陸デ有ル  
及三分ノ二ガ水デ有ル陸ハ二ツノ大ヒ  
ナル大陸ニ迄分タル、西ノ方大陸ハ北  
及南亜米利加ノ続キニ迄分タル、東ノ  
方大陸ハ歐羅巴、亞佛利加、及亞細亞ノ続  
キニ迄分タル、

八 若モ汝ガ十七枚ヲ見テ有フナラバ汝ハ



東ノ方大陸ノ地図ヲ見テ有フ及十八枚  
ニ於テ汝ハ西ノ方大陸ノ地図ヲ見テ有  
フ

第三章

何様世界ガ陸及水ニ迄分タル、カ

一 我ハ其レハ地球ノ表面ノ大抵三分ノ二  
ガ水ヲ以テ蓋ハル、フヲ言ツタ、此水  
ガ一ノ大ヒトル塩水デ有ル然シナガラ

其レノ種々ノ部分ニ迄我々ハ種々ノ名  
ヲ与ヘル

二 此ノ部分其ハ亜米利加及歐羅巴ノ間ニ  
横タハル所ノ此部分ガ大西洋ト名付ケ  
ラル、フーシテ大抵三千里ノ廣サデ有  
ル 此部分其レハ亜米利加及ヒ亞細亞  
ノ間ニ横タハル所ノ此ノ部分ガ太平洋  
ト名付ケラル、フーシテ大抵一万里ノ



廣サデ有ル 其所ニ大ナル鹽水ノ他ノ  
部分ニ迄与ヘラレタル多クノ他ノ名ガ  
アル

三 汝ハ能ク知ル通り船ハ一ノ国カラ他ノ  
国ニ迄水ノ上ヲ出帆スルワシテ此仕  
方ニ於テ交易則商賣ノ最多クガ運カスリドバル  
然シナガラ人間ガ陸ノ上ニ住カスリドフ故  
ニ我ノ話シガ其レハ陸ノ上ニ出来タ所

ノ物ニ迄重ニ拘ルデ有フ  
四 我ハ世界ノ四ノ部分ノ話シヲ人民ニ聞  
タ<sub>1</sub>ヲ汝ニ仮定ムル 其レニ依テ彼等  
ガ亞米利加歐羅巴亞弗利加及セ亞細亞  
ヲ目サス 其レ等ノ外其所ニツ鴛ト名付  
ケラレタル水ニ依テ取巻レタル陸ノ大  
ヒナル多クノ部分ガ有ル  
五 大平洋ニ於テ其所ニ其レ等ノ多クガ有







ナル多クノ種々ノ人民ニ依テ満タレタル府ノ澤山ヲ以タル大ナル國デ有リヲ汝ニ告ゲ子バナラヌ

(二)

其等ノ人民ノ重ナル者カ「ダ」ツタン人デ有ル其人ハ場所カラ場所ニ迄遍歴スル所ノ者デ有ル「阿刺伯」人其人ハ其ヲ以テ彼等ガ沙漠ヲ越テ漂泊スル処ノ駱駝及ヒ奇麗ナル馬ノ大ビナル群レヲ持ツ処

(四)

ノ者デ有ル「ヒンド」則印度國ノ住民其人ハ象ニ乘テ旅シ「シ」テ佛ヲ信仰スル処ノ者デ有ル「波斯」人其人ハ詩ヲ甚ダ好マレ「ソ」シテ美シキ宮殿ヲ持ツ処ノ者デ有ル「支那」人其人カラ我々ハ茶ヲ得ル処ノ者デ有ル日本人其人ハ世畧ノ残りカラ近年迄鎖シテ「ソ」シテ絶交シテ居タ処ノ者デ有ル「ソ」シテ「土」身其人



其人ハ倚子ノ代リニ枕ノ上坐ス処ノ者  
デ有ル

三 亞細亞ノ有ラユル人民其ハ有ユル世界  
ノ住民ノ大抵半分テ有ル処ノ四億デ有  
ル 其レハ北及ヒ南亞米利加ノ全キ人  
ヲ一所ニシタケ左様ニ多ノ人民ノ九  
倍ヲ持ツ

四 亞弗利加ハ汝ガ知ル通り黒人ノ本國デ

有ル 其ハ少シ大ヒナル首府ヲ持ツ然  
シナガラ人民ノ全キ數ガ只六千万デ有  
ル

五 歐羅巴ハ英吉利人佛朗西人以太利人西  
班牙人日耳曼人魯西亞人及ヒ他ノ國ノ  
箇様ナル種々ノ人民ニ迄今タル、其レ  
ハ多クノ羨シキ首府ヲ持ツワーシテ大  
抵住民ノ三億ヲ持ツ



亞米利加ハ其所ニ我々が住フ処ノ國テ  
アル 其レハ有ル大ビナル首府ヲ持ッ  
ソ一シテ多クノ麗シキ都ヤ及ヒ村ヲ持  
ツ然シナガラ殆ンド國ノ半分ガ住居難  
ク有ル全キ人民ガ大抵五千五百万デ有  
ル  
海國オシヘニヤ我が前ニ言シ通り大平洋ニ於テ多  
クノ島ニ付テ續ク噶羅巴ジャバ蘇門答臘スマタラ波羅ボルネオ

及ヒニウホルランド則澳大利ノ如キ其  
レ等ノ有物が甚ダ大キク有ル終リノ物  
ガ地球ノ上ニ最大ビナル島デ有ル 其  
レ等ノ國カラ我々ハ胡椒コウモクヤ丁子チンシヤ珈琲カヒ  
ヤ及ヒ他ノ上味物ヲ得ル海國ノ有ラユ  
ル人民ガ大抵貳千万デ有ル

第五章

世界ニ於テ人民ノ種々ノ種類ニ付







人ニ均シク黄色則オリーフ色ヲ持ツ或  
者ハ比德斯人ニ均シク海色ニシテ青黒  
ク有ル或者ハ黒人ニ均シク黒ク有ル及  
七或者ハ英吉利人及七合衆國ノ人民ニ  
均シク白ク有ル

五或ル國ニ於テ人民ガ泥及枝カラ作りタ  
ル小屋ノ内ニ住ムソシテ弓及七矢ヲ  
持テ狩スルコトニ依テ暮ス其レ等ハ猛

惡ナル有様ニ於テ有ル可ク言ハル、我  
々ノ亞米利加ノ印度人ヤ亞弗利加ノ黒  
人ノ或者ヤ亞細亞ノ住民ノ或者ヤ及七  
海國人ノ多ガ猛惡デ有ル

六或ル國ニ於テ人民ガ一部ハ石及七泥ニ  
付テ建タル家ノ内ニ住ム彼ラハ僅ノ  
本ヲ持ツ寺又集儀院ヲ持ヌソシテ佛  
ヲ信仰セヌ箇様ナル者ハ亞弗利加ノ



黑人ノ多クデ有ル<sup>クロノボ</sup>ワーシテ亜細亞ニ於テ多クノ種族デ有ル 其レ等ガ夷狄ノ有様ニ於テ有ル可ク言ハル、ワーシテ屢々夷狄人ト名付ケラル、彼ラノ風習ノ多ガ甚ダ猛惡デ有ル

⑦或國ニ於テ住民ガ堪<sup>コ</sup>ベキ家ノ内ニ住ムワーシテ富シデ麗シキ宮殿ヲ持ツ人民ガ多クノ巧ミナル術ヲ持ツ然シナガ

ラ學校ガ貧シタ有ルワーシテ只小サナル部分ガ<sup>ア</sup>弗利加<sup>ア</sup>及<sup>セ</sup>歐羅巴ノ住民ノ或者ヲ以テ<sup>ア</sup>支那<sup>ア</sup>人<sup>ア</sup>比<sup>ヒ</sup>德<sup>ス</sup>人<sup>ア</sup>土<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>及<sup>シ</sup>と<sup>テ</sup>亜細亞ノ或ル他ノ人民ニ讀<sup>ミ</sup>書<sup>キ</sup>ヲ教エラル、其レハ開化ノ有様ト名付ケラレモシヤウ<sup>ク</sup>此ノ有様ニ於テ有ル

⑧<sup>ア</sup>歐羅巴ノ多クノ部分ニ於テヤワーシテ合衆國ニ於テ人民ガ善キ家財ヤ多クノ



本ヤ善キ學校ヤ寺ヤ集議院ヤ蒸氣船ヤ  
 鉄道ヤ傳信機ヲ以テ善キ家ニ住ム 其  
 シ等ハ開化ノ最モ高キ有様ニ於テ有ル  
 九 其レ故ニ汝ハ其ハ人間ガ四ツノ種類ニ  
 迄分タレモシヤウヲ氣付ル 其人ハ  
 猛惡ナル有様ニ於テ有ル所ノ人其人ハ  
 夷狄ノ有様ニ於テ有ル所ノ人其人ハ僅  
 開化シテ有ル所ノ人及其人ハ開化ノ最

二 高キ有様ニ於テ有ル所ノ四ツノ種類ニ  
 迄分タレモシヤウヲ氣付ル

亞細亞ノ地圖ヲ勉強スル處

第六章

季候、產物、山、人民及ヒ亞細亞ノ動物  
 及ヒ他ノ物ニ付テ

一 我ハ既ニ其ハ亞細亞ハ大ナル多クノ



首府ヤ及住民ノ澤山ヲ保ウタル大ニナ  
ル國デ有ルヲ言ツタ 其レハ我々カ  
ラ地球ノ反對シタル側ニ付テ横々ワル  
ソ―シテ汝ハ西ニ付テハ大平洋ヲ横切  
ルヲニ依テヤ又東ニ付テハ大西洋及セ  
歐羅巴ヲ横切ルヲニ依テ其レニ迄行キ  
モシヤウ

二 亞細亞ノ南ノ方ノ部分ニ於テ季候ガ温

カデ有ル我々ノ南ノ方ノ國ニ於テノ通  
リ其レ等ノ部分ガ重ニ支那人比德斯人  
波斯人阿刺伯人及セ七耳其人ニ依テ住  
ハル、多クノ場所ニ於テ國ガ豊饒デ  
有ル及セ谷ニ於テ麗シキ花ヤ香料ナル  
灌木ヤ及セ最モ輝ヤセタル色ノ野鳥ガ  
見ラル、

三 亞細亞ノ真中ニ於テ其所ニ山ガ有ル甚

萬國地理通譯 卷之二



レノ頂キが無盡期雪ヲ以テ蓋ハル、  
 其レ等ハ世界ニ於テ最高キ頂テ有ルツ  
 一シテ高サニ於テ殆ント六里デ有ル  
 其レ等ノ北ニ迄其所ニ彼ラガ彼ラノ駱  
 駝及ヒ馬ヲ生スル所ノ手狭キ牧ニ向テ  
 彼ラヲ越テ漂泊スル韃靼人ノ蒔散ラサ  
 レタル種族ヲ以タル大ナル平地ガ有  
 ル処ノ寒國ガ其所ニ有ル彼ラハ家ヲ

建テヌ只天幕ノ内ニ住ムワシテ彼ラ  
 ノ群ノ牛乳及ヒ肉ニテ生活スル  
 ④ 亞細亞ノ生レ付ノ動物彼ラノ多クガ甚  
 ダ著ルシク有ル象ガ深森ニ於テ見ラ  
 ル、犀ガ川ノ縁ヲ傳フ平地ニ於テノ獅  
 子ヤ森ニ於テ王ノ虎ヤ多クノ種類ノ猿  
 ヤ及ヒ小猿ガ暑キ部今ニ於テ滿ルワ  
 シテ長サニ於テ三十「フエー」ナル蛇ガ時



トシテハ出合ハル、

五 亞細亞ノ南ノ方ノ部今ニ於テ颶ハヤテガ時ト

シテハ家ヲ覆ヘシ切キレ々ニ森ヲ裂キワ

シテ國中ニ零落及七荒レヲ蒔散ス此國

ガ屢々早魃オブルシラエドヲ以テ燒カル、時トシテ

四 蟲ムシ冬フユノ百萬ガ風ニ乘シテ來ルワトシ

テ各ノ青キ物ヲ貪リ食フ其レハ又獸

者ノ爲メニナシニモガ残テ有ラヌホ

ド左様ニ各ノ青キ物ヲ貪リ食フ

六 疫病ガ屢シバシバ人民ヲ見舞セシテ千人病

メハ千人死ス箇様ナル者ハ其レノ地

理書及七歴史ニ於テ驚ク可キニツノ國

ナル亞細亞デ有ル其レハ球ノ四ツノ

部今ノ最モ大ナル物デ有ル

其レハ最高キ山ヲ保ツ其レハ動物及七

野菜ノ産物ノ最大ナル種々ノ物ヲ生



スルワーシテ季候ガ茲デ彼等ノ最モ麗  
シキトトワーシテ彼等ノ最モ恐ル可キ  
仕事ヲ一度ニ廣メル

⑦ 亞細亞ハ殊ニ世界ノ最モ人民多キ部分  
デ有ル其レハ最初ノ人間住民ヲ保ツワ  
ーシテ此ノ部分カラ世界ノ總テノ残り  
ガ殖民サレタ 茲デ殊ニ其レハ人ノ歴  
史ニ近屬スル処ノ最モ著シキ出来トガ

① 出来シ茲デ最モ驚ク可キ貴人ガ産レテ  
有シ其レハ加<sup>シカノミナマ</sup>之 此地球ヲ巡ツタ処ノ  
最モ驚ク可キ貴人ガ産レテ有シ  
シテ茲デ殊ニセ<sup>レ</sup>ホバ<sup>レ</sup>ノ勢<sup>ト</sup>強キ意外  
ノ<sup>レ</sup>ガ出来シ

第七章

創造ニ付テ洪水

① 人間ニ依テ住ハレタル世界ノ最初ノ部



今ガ亞細亞デ有シ次ガ亞弗利加デ有シ  
 次ガ歐羅巴デ有シワ―シテ終リノ物ガ  
 亞墨利加テ有シ夫ハ印度人ニ依テ最初  
 ニ殖民サレシ後此終リノ國ガ如何ニ永  
 ク在ルカ我々ハ知り成サヌ然シナガラ  
 最初ニ白キ人民ガ大抵三百七十五年ノ  
 後爰ニ来リシ  
 我々ヲシテ今世界ノ創造ニ迄跡帰ラシ

メヨ此驚クベキ出来事が大抵六千年前  
 ニ出来シ夫レノ咄シガ「ゼ子レス」ノ一章  
 ニ於テ羨シク咄サル、  
 三「アダムト及ビイブガ」亞細亞ニ於テ創造  
 サレシウシテ「イウフレ―ト」川カラ遠  
 ク有テヌ處ノ「エデン」ノ園ニ於テ置レシ  
 此川ガ亞細亞ノ西ノ方ノ部分ニ於テ有  
 ルソウシテ「ニウヨロク」及「ゼ」ボストン「カ



ラ東ノ方ノ向ニ於テ大抵六千里デ有ル  
 四「アダム」及「イブ」ガ暫ラクノ間大ナル世  
 界ノ上ニ在リツ、一ニノ人間デ在リシ  
 乍然彼等ハ神ガ彼ホト共ニ在リシ間ナ  
 ンニモ覺ヘナサバリシ終ニ彼等ガ子供  
 ヲモチシソウシテ年ノ進ミニ於テ彼等  
 ノ子孫ガ甚ダ數多ク在リシ  
 五夫レラハ「ユウフレイト」ノ近所ニ於テ住

ツウシテ爰デ彼等ハ都ヤ首府ヤ及セ村  
 ヲ建シ然シナガラ彼等甚ダアシク成リ  
 シ彼等ハ神ヲ念ズル事ヲ忘レシツ、  
 テ不正ニシテワ、  
 六造物者ガ夫レ故ニ不從順ニ迄ノ罪トシ  
 テワ、  
 者ハ罪ニシタガハ子バナラヌ事ヲ全未  
 来ノ人民ニ迄諫メルトシテノ両方ニテ



ハ口トツーシテ彼ノ子供ノ外ヲ以テ全<sup>アラユ</sup>

人間親屬ヲ絶ヤス事ヲ決定セシ

七

ハ口ハ来ルベキ荒レニ付テ告ラレシワ

ーシテ夫レ故ニア、ク船ヲ造リシ夫レ

ニ迄彼ノ親族ヤ及ヒ陸ノ動物ノ種々ノ

種類ノ一ニ對ヲ集メシ処ノア、ク船ヲ

造リシ夫ハ然ル時地球ノアラユル國ガ

水ノ洪水ヲ以テ覆ハレシ迄兩フル可ク

始マリシ

八

夫レ故ニアラユル人民ガ絶ヤサレシワ

ーシテ世界ガ又一度夫レノ上ニ只算ナ

ル人間親屬ヲ持チシ此出来事が創造後

千六百五十六年ニ出来ン

第八章

何<sup>ドウ</sup>様<sup>ウツ</sup>ハ口トツーシテ彼ノ親族ガア、

ク船<sup>フネ</sup>カラ出<sup>デ</sup>懸<sup>カ</sup>ケシカ何様人民ガシイ

萬國保正通譯



子ルノ國ニ於テ殖民サレシカベイブルニ付テ

① 人民其ノ人ハ洪水前ニ生活セシ処ノ人民ガ前世界人ト號ケラル我々ハ夫ハ經文ニ於テ告ラル、事ノ外彼等ニ就テナシニモヲ知ラヌ夫レハ彼等ガ亞細亞ノ只小サナル部外ヲ越テ廣ガリシ事ノ其事ガ實ラシクアルコトシテ夫レハ一人

モ洪水前ニ亞弗利加歐羅巴又亞墨利加ニ於テ各住デアラヌ事ノ其事ガ實ラシク在ル

② 洪水ハ十一月ニ於テ始マツタ事ト仮定メラル、ワシシテ雨ガ三月ニ於テ止シダト考ヘラル、水ガ減シタ時ノ後ワシシテハワノア、ク船ガ夫レハ今デモ見ラレ可ク在処ノアラ、トト號ケラレ



タル「亞墨利加」ニ於テ高キ山  
残リシ

③ 人民トソリシテ動物ガ今「ア」ク船カラ  
出懸ケン此動物ガ彼等自カラ諸方ニ廣  
ガリシワーシテ數世ノ後彼等ハアラユ  
ル國ニ迄廣ゲフレシ

④ 「ハ」ハ「セム」ハ「モ」及ヒ「シヤ」ヘ「ス」ナル三ツ  
ノ息子ヲ持シ夫等ハ彼等ノ親族ト共ニ

夫ハ「ア」ラ「ト」山ノ南ニ迄横タワル処ノ  
「シ」ナルノ國ニ迄進ミシ爰デ彼等ハ夫  
ハ前世界人ニ依テ住ワレタ所ノ丁度同  
シ國ナル「ユ」ー「フ」レ「ト」川ノ縁ノ邊リニ  
彼等自ラ殖民サレシ夫ハ最初ノ人民ガ  
形ヲ作ラレシ事ノ其事ガ此地方ニ於テ  
有ル

⑤ 其人ハ洪水ヲ記臆セシ処ノ物テヤ又夫



ニ付テ聞々処ノ惣テノ人が恐レテ在リ  
シ夫レハ人間ノ悪事が再セ均シキ仕方  
ニ於テ罪セラル、デ有フ事ヲ恐レテ有  
リシ彼等ハ夫故ニ夫レハ彼等が夫ノ上  
ニ昇リウシテ荒カラ彼等自カラヲ助  
ケ得シ処ノ塔ヲ建ベク決定セシ  
六 夫故ニ彼等ハ「エーフレ」川ノ東濱ノ  
邊リニ建家ノ基礎ヲ置レシ恐ラクハ其

レハ其レノ頂が青空ニ届キウシテ天  
ニ迄登ル可ク彼等ニ適當スルテ有フ  
程龙様ニ高ク塔ヲ建ルヲ望ミシ  
七 彼等ノ建タル物が瓦デ有シ夫ハ太陽ニ  
於テ焼レタ所ノ瓦デ有リシ油石灰ノ代  
リニ彼等ハ泥又チヤンノ種類ヲ以テ瓦  
ヲ一所ニ塗付シ

八 職人カ甚タ出精ニ働ラキシウシテ地



球が彼等ノ下ニ著シク隔タツテ有シ迄  
 他ノ者ノ上ニ瓦ノ一並ベヲ積シ然シテ  
 カラ青空及セ太陽及セ星が彼等が最初  
 ニ始メシ時丈ケ其レ丈ケ隔ツテ見ヘシ  
 九或日夫等ノ馬鹿ラシキ人民が彼等ノ仕  
 事ニ於テ在リシ間甚タ驚ク可キ事が出  
 来シ彼等ハ常ノ如ク一啣ニ咄シテ有シ  
 然シテナカラ不意ニ彼等ハ互ニ何ヲ言シ

カヲ利解スルノ其事が出ク可クラス  
 見ヘシ

十職人ノ或ル者が瓦ニ向ツテ呼ブ時彼等  
 ノ仲間が塔ノ底ニ於テ彼等ノ意味ヲ間  
 違シツクシテ彼等ニチヤンヲ持来タヤ  
 シ若シモ彼等が道具ノ一ツノ種類ニ向  
 ツテ言フ時ニ他ノ種類が彼ニ与ヘラレ  
 シ彼等ノ言葉が夫ハ咄ス事ヲ教ヘラレ



夕前ノ小サナル子供ノ無益言ニ均シク  
 有ル意味ナシニ僅カ響カレ可ク見ユル  
 ①此出来事ガ夫ハ彼等ガ塔ヲ建ル事ニ就  
 テ行キ能ハヌ事程箇様ナル混雜ヲ仕出  
 セシ彼等ハ夫故ニ天ニ迄昇ル事ノ考ヲ  
 止メシツテ地球ノ種々ノ部分ニ迄  
 徧歴スルヲ決定セシ夫ハ彼等ガ其人  
 ハ解リヨク一所ニ咄シ能フ処ノアラユ

ル人ニ付テ成立タル種々ノ部分ニ迄彼  
 等自ラヲ形ヲ造リシ事ノ其事ガ均シク  
 有ル彼等ハ種々ノ向ニ於テ彼等ノ旅  
 就テ進ミシ  
 ②セムノ子孫ガエーフレトニ迄近キ國ヲ  
 越テ彼等自ラヲ分ラレタ事ト仮定メラ  
 ル、ヘムノ子孫ガ西ノ方ニ行キシツ  
 シテ亜弗利加ニ迄進ミシ彼等ハ麥西ニ



於テ殖民サレシツ<sup>ソ</sup>シテ其処ニ大ナル  
人民ノ基礎ヲ置レシジヤフエス<sup>ソ</sup>ノ子孫  
ガ希臘ニ迄進ミシツ<sup>ソ</sup>シテ夫故ニ種々  
ノ歐羅巴人民ノ基礎ヲ置シ

⑤ 近キ時代ニ於テ或旅人が「エーフレ<sup>ト</sup>」  
ノ濱ノ邊リニ大ナル小丘ヲ見出シタ夫  
ハ千ヤンヲ以テ一所ニ塗付ケテ日デ焼  
タル瓦ニ付テ組立ラレ彼等ハ夫ハ四千

年ヨリ尤以前ニ立ラレシ処ノ「ペーブル<sup>ル</sup>」  
ノ塔ノ古跡デ有ル可ク此小丘ヲ信用ス  
ル

第九章

大ナル「アスシヤリヤ」帝國及セ「シミラ  
ミス」女王ノ世ニ就テ

① 若シモ人間ノ残りガ地球ノ種々ノ部分  
ニ迄蒔散サレシ時ニ其処ニ其レハ「ペー



ブルノ塔ニ付テ記臆セシ処ノ人民ノ許  
多ガ有シ彼等ガ夫ハ温キ國及セ甚々豊  
饒デ有シ処ノシーナノ國ニ住フ可ク  
續ク時ノ進ニ於テ彼等ガ國ノ尤大ナ  
ル地方ヲ越テ廣ガリシツーシテ都及セ  
首府ヲ建シ

②此地方ガアスシヤリヤノ名ヲ請シ夫ハ  
地球ノ人民ノ根元デ有リシ夫ノ國境ガ

違フタル時代ニ於テ變シ然シナカラ地  
圖ニテ其レノ場所ガ普魯士<sup>ペルシヤ</sup>入江ニ北ノ  
方ナルチ<sup>④</sup>グリ<sup>④</sup>ス及ヒ<sup>④</sup>ニ<sup>④</sup>ト<sup>④</sup>フ<sup>④</sup>レ<sup>④</sup>ト<sup>④</sup>ノ<sup>④</sup>ニ  
ツノ河ノ近所ニ於テ見ラレモシヤウ

③「<sup>③</sup>」ノ<sup>③</sup>「<sup>③</sup>」ノ<sup>③</sup>孫ノ<sup>③</sup>「<sup>③</sup>」ア<sup>③</sup>サ<sup>③</sup>ル<sup>③</sup>ハ<sup>③</sup>「<sup>③</sup>」ア<sup>③</sup>ス<sup>③</sup>シ<sup>③</sup>ヤ<sup>③</sup>リ<sup>③</sup>ヤ<sup>③</sup>ノ<sup>③</sup>最  
初ノ支配人デ有リシ紀元前二千二百二  
十九年ニ於テ則創造後千七百七十五年  
ニ於テ彼ガ<sup>③</sup>「<sup>③</sup>」子<sup>③</sup>「<sup>③</sup>」ブ<sup>③</sup>ノ<sup>③</sup>首府ヲ<sup>③</sup>建<sup>③</sup>シ<sup>③</sup>ツ<sup>③</sup>ー<sup>③</sup>シ



テ百フイート高キ石垣ヲ持テ其レヲ取  
卷シ此首府が左様ニ大キクナリシ其レ  
ハ人ガ其レヲ巡ツテ僅歩ルク「ニ於テ  
百里ヲ旅シタデ有フ事程左様ニ大キク  
有リシ

④然シナガラ其レハ暫時後ニ建ラレシ処  
ノ「バベロン」ノ首府が大キトワ「シテ  
美麗ニ於テ両方共ニ子「ヅニ迄優ツテ有

⑥リシ夫ハ「エトフレ」ト「川ノ邊」リニ置レ  
シ此石垣が夫ハ「両側」ヲ放レテ「落ル事」ノ  
危難ナシニ「馬」ニ依テ牽レタル六ツノ車  
が頂上ノ上ヲ並ベテ牽レ能フ事程左様  
ニ厚ク有シ我々ノ國ニ於テ我々ハ石垣  
ヲ以テ我々ノ首府ヲ取卷ナサ又然シナ  
ガラ昔ノ時代ニ於テ石垣が彼等ノ敵カ  
ラ人民ヲ防ク「」が要用デ有ル



五 此首府ニ於テ其処ニ王宮ニ迄属シタル  
 立派ナ園ガ有リシ彼等ガ地球ノ上ニ残  
 ル事ナシニ空ヲニ於テ懸テ有ル様ニ見  
 ヲ可キ仕方ニ於テ營ナマレシ彼等ガ大  
 ナル木ヤツーシテ果實及ヒ花ノアラユ  
 ル種類ヲ保ツニ於テ  
 六 其処ニ又其人ガ「アスシマリヤン」スノ重  
 ナル佛デ有シ処ノ「ベラス」亦「ボル」ニ迄

俸ダラレタル美シキ殿堂ガ在リシ此殿  
 堂ガ六百六十フヒードノ高サデ在リシ  
 ヲーシテ其レハ高サニ於テ四十フヒー  
 トナル「ベラス」ノ金ノ像ヲ保チシ  
 七 「バベローン」其レハ其レノ勢ヒ強キ獵人  
 ガ經文ヲ我々ニ教エル処ノ「ニムロッド」  
 ニ依テ建ラレシ然シナガラ其人ハアラ  
 ユル美シキ園及ヒ王宮ヲ造リシ処ノ人







ラスタシト言フ処ニ於テ生活セシ処ノ  
印度人ノ富デワーシテ勢セ強キ王ニ向  
ワテ進シ

第十章

シラニス女王ガ世界ヲ掌握ス可ク  
進シ然シナガラ印度ノ王ニ依テ打  
勝レシ

一若シモ印度ノ王其人ガ甚タ富デワーシ

テ勢セ強ク有リシ処ノ印度ノ王ガ其レ  
ハシラニス女王ガ彼レノ領分ヲ襲ヒ  
ニ来テ有リシ事ヲ聞シ時ニ彼ハ彼等ヲ  
防ク可ク人ノ大ナル數ヲ集メシ彼ノ兵  
卒ノ外ニ彼ガ大ナル多クノ象ヲ持シ  
二其レ等ノ恐ロシキ獸物ノ各ガ兵卒ノ一  
大隊ガラモスノハ有リシ彼等ハ戦場ニ迄突  
入事ヲ教ヘラレシツシテ彼等ノ鼻ヲ



以テ敵ヲ投ゲ上ゲル事ヲ教エラレシソ  
一シテ彼等ノ大ナル足ヲ以テ彼等ヲ下  
ニ踏ミ付ケシ

三

今<sup>サテ</sup>シミラミス女王ガ象ヲ持ヌソ一シテ  
其レ故ニ彼女ハ印度ノ王ガ彼女ニ打勝  
ツデ有フ事ヲ恐レテ有リシ彼女ハ甚々  
奇ナル偽計ニ依テ此不幸ヲ防ク事ヲ務  
メシ最初ノ場所ニ於テ三<sup>サビシキ</sup>千ノ黒青キ牛

ヲ殺セト命ジシ

四

死タル牛ノ皮ガ剥<sup>ハギ</sup>取ラレシソ一シテ象  
ノ形子ニ於テ一所ニ縫付シ其レ等ガ駱  
駝ノ上ニ置レシソ一シテ駱駝ガ戰場ノ  
饒リニ於テ牽出サレシ時ニ彼等ハ大ナ  
ル青キ象ノ軍卒ニ均シク尤美シク見ヘ  
シ印度ノ王ガ疑ヒモナク何<sup>ド</sup>処デシミラ  
ス女王ガ彼等ヲ得タカヲ驚キシ



高麗書通譯

卷二

四十一

五軍が戦ハレ可ク有リシ時ニ印度ノ王が  
彼ノ實ノ象ヲ以テ片側カラ前ノ方ニ進  
コシソ一シテ彼駱駝及ヒ牛ノ皮ヲ持タ  
ルシコラミス女王が他ノ側カラ彼ニ向  
ツテ猛勇ニ来リシ

六然シナカラ印度ノ軍勢ガアスシヤリヤ  
ンスノ軍勢ニ近手近ク進シダ時ニ彼等  
ハ其処ニ彼等ノ間ニ象ノ如キ箇様ナル

物ハ有ラサリシ事ヲ見知リシ彼等ハ其  
レ故ニアラユル恐レヲ取除ケシツ一シ  
テシコラミス女王及ヒ彼ノ兵卒ニ向テ  
烈シク突入シ

七實ノ象ガ駱駝ヲ敗走ニ迄置シソ一シテ  
然ル時大ナル酷暴ニ於テ彼等ハ空ニ迄  
アスシヤリヤ人ヲ投上ゲツ、上ニ進ミ  
ンフーレテ數百ニ依テ彼等ヲ下ニ踏ミ

高麗書通譯

卷二

四十一



萬國通志卷一

付ツ、進ミシ其レ故ニアスシヤリヤノ  
軍勢ガ敗ラレシテ印度ノ王カ十  
分ナル勝利ヲ得シ

八シミラミス女王ガ烈シク疵付ラレシ然  
シナガラ彼女ハ車ニ乗ジツシテ戦場  
カラ十分ナル進ミニ於テ逃出セシ彼女  
ハ終ニ只甚々悲シキ有様ニ於テ彼レ自  
ラノ皇國ニ迄遁レシ

九彼女ハ然ル時バベロニ於テ王宮ノ内  
ニ彼ノ住居ヲ建シ然シナガラ彼女ハ其  
レハ彼女ガ空ニ於テ懸タ所ノ美シキ園  
ニ於テ彼レ自ラ永ク樂ミ成サバリシ其  
レハ彼レ自ラノ息子其名ハニ、ヤステ  
有シ処ノ彼レ自ラノ息子が彼ノ母ヲ死  
ニ迄置ク事ノ其ノ事が言ハル、其レハ  
彼ガ王位ノ持物ヲ取得ソシテ人民ヲ

萬國通志直譯

卷一

四十一



萬國通譯

卷一

四十二

越エテ支配スル事ノ其事が言ハル、

⑩ 箇様成ル事が勢也強キシラミ女王

ノ傷マシキ終リテ有リシ彼レ自ラノ人

民ガ幸セテ成ス事ノ代リニ他ノ人民ヲ

掌握スル事ヲ試ミル事ニ於テ彼レノ生

活ヲ盡ス可ク彼ニ向ツテ其レガ何ント

馬鹿氣テウシテ惡シクアリシ事デハ

ナイカ然シナカラ彼女ハ此能キ汰ヲ學

バナシダ汝ニ迄成ス他ノ者ヲ持テ有フ

如ク汝ガ他ノ者ニ迄成セ(此ハ人ノ振リヲ見テ我カ族  
リヲ直セト言フコトナリ)

第十一章

ニ、ヤスニ就テサルダナバルスノ世

及ヒアスシヤリヤン帝國ノ零落

① ニ、ヤスガ彼レノ母ヲ惡シク殺シタ後

彼ハアスシヤリヤンノ王ト成シ彼ノ支

配ガ紀元前大抵二千年ニ始マリシ則チ

萬國通譯

卷一

四十二







四ニ、ヤスノ世ノ後其処ニ其レノ間アス  
シヤリヤノ皇國ニ於テ何が出来タカラ  
言フ事ノ其ノ事が出来可カラズ有ル処  
ノ八百年ノ間隙ガ有リシ其レハ王ノ多  
クガニ、ヤスニ均シク有リシ事ノ此事  
ガ實ラシク有ル其レハ彼等ガ無益ナル  
樂ニ於テ彼等ノ時ヲ費セシツテ  
曾テ記憶ノ有ル者ノ價ウチヲ成サバリ

五或年ノ後其処ニアスシヤリヤ其名ハ  
ルダナパルスデ有リシ処ノアスシヤリ  
ヤノ王位ノ上ニ王ガ有リシ彼ハ美クシ  
キ若キ人デ有ツタ事ト言ハル、然シナ  
カラ彼レハ怠惰ナル人テ有シツテ  
彼レノ皇國ノ氣付ヲ取ラザリシツテ  
テ彼ノ人民ノ安全ヲ採取ラセル事ヲ企

萬國通史 卷之五 日一



テ成サ

六 彼レハ嘗テ彼レノ王宮ノ外ニ行カザリ  
 シ然シナガラ女ノ間ニアラユル時ヲ暮  
 セシソ<sup>ソ</sup>シテ彼等ノ仲間ニ向テ彼レ自  
 ラ余程似合セ成ス可ク譯ニ於テ彼レハ  
 彼ノ顔ニ白粉<sup>フミコ</sup>付ケシソ<sup>ソ</sup>シテ時トシテ  
 ハ女ノ着物ヲ着シ此ノ笑フ可キ仕方ニ  
 於テ大ニナル王ノ「サルダナバル」スガ女

一 共ニ坐シソ<sup>ソ</sup>シテ紡<sup>ツム</sup>ダ可ク彼等ニ手  
 傳フ事ヲ要セシ

七 然シナガラサルダナバル「スガ奢<sup>ヲコッ</sup>テソ<sup>ソ</sup>  
 シテ躍テソ<sup>ソ</sup>シテ彼レノ顔ニ白粉付ケ  
 テソ<sup>ソ</sup>シテ彼レ自ラ女ニ均シク着物着  
 テソ<sup>ソ</sup>シテ紡<sup>ツム</sup>ダテラ女ニ手傳ツテ居リ  
 シ内ニ驚ク可キ騷動ガ彼レノ天窓<sup>アマドマ</sup>ノ上  
 ニ近寄ツテ有リシ



八「モデス」ノ鎮臺ノアルバシスガ此價ウチ  
無キ國王ニ向ツテ軍ヲ成シツドシテハ  
ベロシノ首府ニ於テ彼ヲ取圍ニシ「サ  
ダナパルス」ハ其レハ彼レガ道レ能ク又  
事ヲ見シ「ワ」シテ若シモ彼レガ久シク  
生シ時ニ彼ハ實ニ奴隸ト爲ルデ有フ  
ヲ見シ「ワ」シテ  
九 尤様ニ寧口奴隸デ有ルヨリモ彼ハ死ヌ

事ヲ決定セシ彼ハ其故ニ彼ノ室ヲ集メ  
シ「ワ」シテ彼ノ王宮ノ羨シキ座敷ニ於  
テ「ワ」ノ大ナル建家ニ於テ彼等ヲ積上  
ケシ此王宮ガ速カニ炎ニ於テ有シ「ワ」  
シテ「サ」ルダナパルスガ彼ノ氣ニ入ノ役  
人ヤ及羨シキ女ノ多ヲ以テ炎ニ於テ死ニ  
迄燒シ其故ニ此國カ「アルバシ」ニ依テ掌  
握サル、処デ大ナル「ア」ス「ヤ」リ「ヤ」ノ王ガセビシ



十「ナルダナパルス」ハ紀元前大抵八百七十  
 六年ニ死シ新ラシキ皇國が起シ時ノ後  
 ヲシテニ子「ブガケ」ルデ有シ時ノ  
 後其レガ二代ノ「アスシヤリヤ」帝國ト號  
 ケラル此帝國ノ王ガ「エウス」ニ就テ軍  
 マナシ「ウ」シテ經文ニ於屢吐シ出サ  
 ル彼等ノ勢セガ終ラレシ「ウ」シテニ子  
 「ブガ」終ニ紀元前六百六年ニ「ミ」デ  
 「ス」ノ王

第十二章

一依テ討崩サレシ  
 「ベブリウス」又セ「ウ」ニ就テ「ベブリウ」  
 根元「マ」西ニ迄セ「コ」「ブ」及セ彼レノ  
 二「子供」ノ所替  
 一「ベブリウ」人民ノ基礎人ガ「アブラハム」デ  
 有リシ其ノ人ハ洪水後大抵二百年ニ生  
 レテ有リシ処ノ者デ有リシ彼ノ出生ノ

高國志  
 卷二  
 四一



國ハ其レハ「ア」スシヤリヤ「バ」帝國ノ南ノ部  
分ニ形ヲ造ラレシ處ノ「チ」エルデ「バ」デ有  
リシ

(二)「チ」エルデ「バ」ノ住民ノ残リガ佛信仰入デ  
有リシ「ク」シテ大陽月及ヒ星ヲ信仰セ  
シ然シ「チ」ガラ「ア」ブラハ「ム」ハ其レヲ我々  
ガ念ズル處ノ信トノ神ヲ信仰セシ彼ノ  
生涯ノ早キ部分ニ於テ彼レノ「チ」エルデ

「ア」シノ平地ニ於テ牧者デ有リシ彼ノ父  
ノ「テ」ラ「ア」ト言フ人ガ死テ有リシ時ニ神  
ガ彼ノ本國ヲ出立スル事ヲ彼レニ命ゼ  
シ「ク」シテ「カ」ナ「ア」シノ國ニ迄西方ニ旅  
スル事ヲ彼ニ命ゼシ

(三)此國ガ其後「バ」レス「タ」イ「ン」ト「キ」ケラレシ  
其レハ地中海ノ東側ノ邊ニ有ル「ア」ラ「バ」ヤ  
ノ北ニ當ル「ク」シテ殆ンドニ「ウ」ヨロ「ク」



カラ南東ニ六千里デ有ル其レハ富デツ  
シテ豊饒ナル國デ有リシワトシテ神  
ガ其レハ彼ノ子孫ガ其処ニ住<sup>ス</sup>デ有<sup>フ</sup>事  
ヲ「アブラハム」ニ約束セシ

四

「アブラハム」ノ生涯ノ多クノ歳方々<sup>ホウ</sup>徧<sup>ク</sup>歴  
スル事ニ於テ盡サレシ彼レノ妻ノ「サ  
ラ」ガ彼レト共ニ行シソトシテ彼等ガ下男  
下女ノ大セナル數ニ依テ誘ハレシワト

シテ多クノ群及セ<sup>テ</sup>獸ノ群ニ依テ誘ハレ  
シ彼等ハ天幕ノ内ニ住ムソトシテ居付  
タル家ヲ持タヌ

五

「アブラハム」及セ<sup>テ</sup>「イサアツク」ト<sup>ナ</sup>稱<sup>ス</sup>  
ケラレタル一人リノ息子ヲ持シ彼レノ  
父ガ彼ヲ深ク愛セシ然シナガラ神ガ彼  
ノ子供ヲ供エロト彼レニ命ゼシ時ニ<sup>カシ</sup>畏  
ル可ク用意セシ然シナガラ天狗ガ天カ



舊約全史直譯 卷一 四十六

ラ下リシワ一シテ彼レノ息子ヲ殺サヌ  
ト彼レニ告ゲシ

六 アブラハムノ生涯が感ズ可キ出来事ノ  
十今デ有リン然シトガラ我ハ残ラズ此  
処デ彼等ニ咄ス可キ場所ヲ持タヌ彼レ  
ハ百七拾五歳ヲ経テ有ル可ク生活セシ  
ワトシテ然ル時カナア内ノベブロ  
ニ於テ死シ此昔シノ先祖カラゼウ  
ス及

七 アラバ人が分ケラレシ

七 アブラハムノ息子ノイサアツクハ  
ワ及セコトブナルニ人リノ子供ヲ取  
残セシニ男ノゼコトブガ汁ノ一皿ニテ  
彼ノ徳ヲ得ル可ク彼ノ兄ニ説キ進メシ  
彼モ亦彼ノ父ガイサウニ付テ贈ル事ヲ  
企テシ処ノ恵ミヲ請シ

八 其ノ人ニ迄神ガイスレールノ名ヲ與ヘ

舊約全史直譯 卷一 五十一



舊約全史直譯 卷一 五十一

シ処ノゼ「コ」<sup>レ</sup>「ブ」ガ十二ノ息子ヲ持シ其  
名ハ「リ」ウベ「シ」<sup>レ</sup>「メ」ヲ「シ」<sup>レ</sup>「ヴ」イ「ダ」<sup>レ</sup>「シ」ユ  
「ダ」ナ「プ」ザ「リ」ガ「ツ」ド「ア」シ「ユ」ル「イ」ス「サ」ー「チ」  
「エ」ル「ゼ」ブ「ロ」<sup>シ</sup>「ジ」ヨセ「フ」及「セ」ベン「ジ」ヤ「ミ」  
<sup>レ</sup>「デ」有「リ」シ「処」ノ十二ノ息子ヲ持シ其レ  
ラノ十二ノ各ノ子孫ガ其後「ヘ」ブ「リ」ウ「示」  
「イ」ス「レ」ー「リ」チ「ー」<sup>ス</sup>ノ間ニ別段ナル種族  
トナリシ

九我ノ若キ案内者ガ「ジ」ヨセ「フ」及「セ」彼ノ兄  
弟ノ美シキ咄シニ向ツテ經文ニ於テ見  
エ子バ十ラヌ我レハ「ジ」ヨセ「フ」ガ奴隸ニ  
マデ賣レソ「シ」テ「エ」<sup>エ</sup>「シ」<sup>ド</sup>「マ」<sup>ド</sup>「西」ノ國ニ迄荷ハレ  
シ事ヲ絶カ彼ニ告ゲ能フツ「シ」テ夫レ  
ハ其処ニ彼レハ彼レノ老ヒタル父及ヒ  
飢饉ニ依テ死カラアラユル彼ノ兄弟ヲ  
守護スル革ノ譯デ有リシ処ノ者ナリ

舊約全史直譯 卷一 五十一



十<sup>レ</sup>ゼコー<sup>レ</sup>ブ<sup>レ</sup>及<sup>レ</sup>七<sup>レ</sup>彼<sup>ノ</sup>十二<sup>ノ</sup>子供<sup>ガ</sup>麥<sup>西</sup>ニ  
遠<sup>レ</sup>置<sup>レ</sup>代<sup>ヘ</sup>ラ<sup>レ</sup>レ<sup>シ</sup>フ<sup>ー</sup>シ<sup>テ</sup>其<sup>レ</sup>処<sup>ニ</sup>彼<sup>等</sup>ノ  
住<sup>居</sup>ヲ<sup>持</sup>ラ<sup>ヘ</sup>シ<sup>其</sup>レ<sup>ハ</sup>ヘ<sup>ブ</sup>リ<sup>ウ</sup>人<sup>ガ</sup>最<sup>初</sup>  
ノ<sup>人</sup>民<sup>テ</sup>有<sup>ル</sup>可<sup>ク</sup>始<sup>マ</sup>リ<sup>シ</sup>事<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>  
事<sup>ガ</sup>此<sup>國</sup>ニ<sup>於</sup>テ<sup>有</sup>リ<sup>シ</sup>其<sup>レ</sup>ハ<sup>彼</sup>等<sup>ノ</sup>歷<sup>史</sup>  
史<sup>ガ</sup>此<sup>時</sup>限<sup>カ</sup>ラ<sup>始</sup>メ<sup>可</sup>ク<sup>言</sup>ハ<sup>レ</sup>モ<sup>シ</sup>ヤ  
ウ<sup>レ</sup>程<sup>尤</sup>様<sup>ナ</sup>リ  
ゼコー<sup>レ</sup>ブ<sup>レ</sup>ハ<sup>紀</sup>元<sup>前</sup>千<sup>六</sup>百<sup>八</sup>十<sup>九</sup>年<sup>ニ</sup>死<sup>シ</sup>

亞國ペートルパアリー著  
日本西村恒方譯

東京  
御成道田代町  
紀伊國屋徳藏原版  
書肆  
神田橋御門外  
伊勢屋安兵衛求版



